

高齢者の意欲低下の評価・診断・介入のためのフローチャートの開発及び指針作成

順天堂大学 馬場元（2025年度～2027年度）

研究開発目的

高齢者の意欲低下には、身体疾患、認知症、心理・社会的要因、薬剤など様々な原因が関係します。本研究では、意欲低下を早期に捉え、原因に応じた治療やケアにつなげる指針とフローチャートを作成します。

取り組み

高齢者の意欲低下の原因と対応について国内外の文献レビューを行いました。また、意欲低下の実態と課題を把握するため、医師、医療・介護従事者、当事者・家族を対象にアンケート調査を実施しました。これらをもとに、本人・家族向け、医療・介護従事者向け、医師向けの3種類のフローチャートと指針を作成しています。

成果

文献レビューから、意欲低下に関連する脳疾患、身体疾患、心理・社会的要因、薬剤性要因を整理しました。アンケートでは、意欲低下の問題意識、評価、原因の捉え方、対応に立場による違いが明らかになりました。

今後の展開

3種類の指針・フローチャートを作成し、実際の医療・介護の現場などで試用・評価します。その結果をもとに改良し、医療・介護の現場や地域、家庭への普及を目指します。

現在までの成果

文献レビュー

身体的要因
薬剤、視覚・聴覚、口腔、慢性疼痛、フレイル等

脳器質的要因
せん妄、MCI、AD/DLB/PD/FTD等

心理社会的要因
うつ病、睡眠障害、孤立、喪失体験等

原因・評価・対応を整理

実態調査

医師・医療介護従事者 696名
当事者・家族 300名

問題意識

評価方法

原因・要因

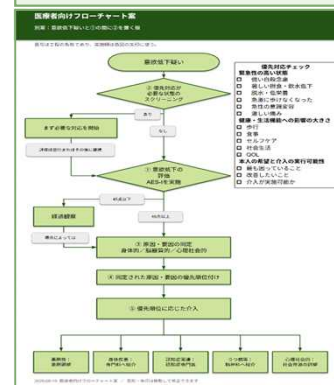
対応・介入

立場による相違を把握

文献レビュー＋実態調査の結果を反映

今後の展開

医療職向け案（作成中）



3種類のフローチャートを作成中

本人・家族向け 気づきやすく簡便に

医療・介護従事者向け 日常の観察から評価

医師向け 原因を詳しく評価し介入へ

複数原因の優先順位付けを含む判断手順へ

試用・評価

改良

公開・普及